コベルコ建機

適用範囲		モデル名			SK30SRST-5
		仕様			後方小旋回
		適用号機			PD02-00101~
区分	検査箇所	検査項目（条件）		単位	検査基準値
エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度			
		ハイアイドリング		min^{-1}	2550±25
		ローアイドリング		min^{-1}	1400±50
		（冷却水温）		（℃）	（—）
		（作動油温）		（℃）	（45～55）
		弁すき間			
		吸気弁 隙間		mm	0.15～0.25
		排気弁 隙間		mm	0.15～0.25
		（測定条件）		（℃）	（冷態時）
		圧縮圧力又は気筒間圧縮圧力差		MPa kgf/cm2	3.06～3.26 30～32
		（冷却水温）		（℃）	（—）
		（回転速度）		（rpm）	（250）
	燃料装置	噴射ノズルの燃料噴射開始圧力		MPa kgf/cm2	19.6 200
	冷却装置	ファン駆動ベルトの張り [測定位置・条件] （中間を指で押す力） kgとNの両方で表記		mm N・m kgf	10～14 オルタネータプーリ～クランクプーリ間 （ 98 ） （ 10 ）
走行装置	走行性能	最高速度	ゴム	秒	18.8
			鉄	秒	19.3
		[測定方法・条件]			クローラ5回転／高速モード [図-01]
	履帯 （クローラベルト）	ゴムベルト	張り（たわみ量） [測定方法・条件 （図面番号表示）]	mm	80～90 [図-02]
		鉄シュー	張り（たわみ量） [測定方法・条件 （図面番号表示）]	mm	115～130 [図-02]
			リンクピッチの伸び [測定方法・条件]	mm	101.6 〔1リンクピン間距離〕
			履板取付けボルト締付けトルク [測定方法・条件]	N・m kg・m	—

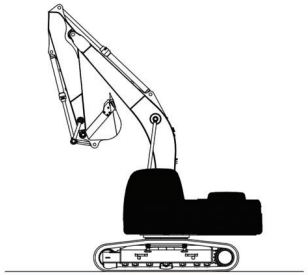
コベルコ建機

適用範囲		モデル名		SK30SRST-5
		仕様		後方小旋回
		適用号機		PD02-00101~
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値
作業装置	作業機自然降下	バケット先端位置	mm	125
		（測定時間）	（分）	（10）
		（作動油温）	（℃）	（50～60）
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-03]
	シリンダ自然伸縮	ブームシリンダ	mm	10
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-03]
		アームシリンダ	mm	4
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-03]
		バケットシリンダ	mm	2
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-03]
		ブレードシリンダ	mm	2
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-03]
		（測定時間）	（分）	
		（作動油温）	（℃）	（50～60）
	作業機速度	ブーム上げ	sec	2.2±0.4
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-04]
		アームシリンダ伸ばし	sec	2.6±0.4
		縮め	sec	1.7±0.4
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-05]
		バケットシリンダ伸ばし	sec	2.5±0.4
		縮め	sec	1.7±0.4
		作業装置姿勢 （図面番号表示）		[図-06]
		性能測定条件 （荷重・設定モード等）		（ 無負荷 ）
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力	MPa kgf/cm2	23.0 235
		性能測定条件 （設定モード等）		（ エンジン：ハイアイドル 作動油温：50℃ ）
動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの締付け	アウタレース取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	—
		インナレース取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	115.0 11.7
	旋回減速機取付けボルトの締付け	油圧モータ取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	115.0 11.7
		旋回減速機取付けボルトの締付けトルク	N・m kgf・m	—
備考				

★印：新車基準値を表す。

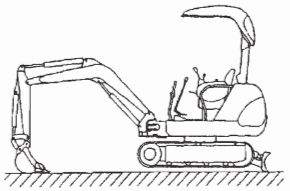
コベルコ建機

適用範囲		モデル名		SK30SRST-5
		仕様		後方小旋回
		適用号機		PD02-00101~
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値
動力伝達装置	クレーン時の旋回速度	旋回 作業装置姿勢 (図面番号表示)	sec	13.3～15.0 [図-07]

項目	測定方法
旋回速度	・エンジン：ハイアイドル ・作動油温：50℃±5℃ ・作業モード；S又はMモード ・クッションストロークを除く作動時間 ・バケット空荷で平坦地 ・ブームシリンダ/アームシリンダ/バケットシリンダ最伸 ・方　法 旋回レバーをフルストロークを操作し旋回する。 一回転助走後の二回転に要する時間を測定し、 一回転当りの所要時間を算出する。  図-07

走行速度（5 回転）

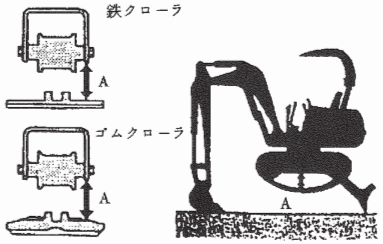
・エンジン　定格回転
・作動油温　50℃ ～ 60℃
・測定姿勢　ホウアタッチメントとドーザを使用し、車体を持ち上げる。
・クローラシューを回転させ、2 回転目より数え、5 回転するまでに要する時間を測定する。（等速回転後の測定）



図－01

クローラの張り

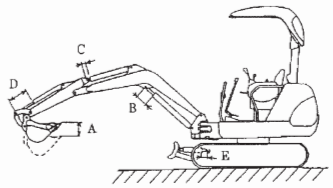
・ホウアタッチメントとドーザを使用し、車体を持ち上げる。
クローラフレーム中央部におけるフレーム下面とクローラシュ上面とのすきまを測定する。
注）ゴムクローラの場合は、“M”マークの印された継目部を上部中央にして測定すること。



図－02

シリンダ自然降下量
ブーム、アーム、バケット、ドーザ、バスケット先端

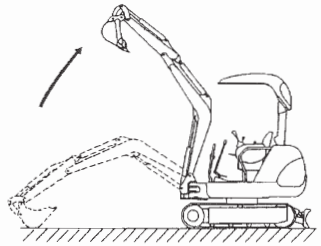
・エンジン　停止
・作動油温　50℃ ～ 60℃
・測定姿勢　ドーザ、アームシリンダは最縮小、バケットシリンダは最伸長とし、ブームフートピンとバケットピンの高さを同一にする。
・測定姿勢を 10 分間保ち、その間に変化したロッドの長さ、及びバケット先端での変化量を測定する。



図－03

ブームシリンダ速度

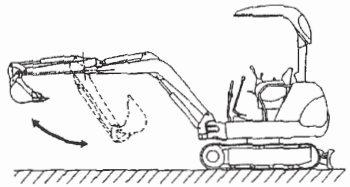
・エンジン　定格回転
・作動油温　50℃ ～ 60℃
・測定姿勢　アームシリンダを最縮小、バケットシリンダは最伸長とする。ドーザを設地させる。
・バケットの設置位置（最高上げ位置）から、最高上げ位置（地上設置位置）までの所要時間を測定する。（クッション作動時間は含まない）



図－04

アームシリンダ速度

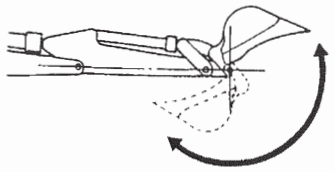
・エンジン　定格回転
・作動油温　50℃ ～ 60℃
・測定姿勢　アームシリンダを最縮小、バケットシリンダは最伸長とし、アームを水平にする。ドーザを設地させる。
・アームシリンダの最伸長時（最縮小時）から最縮小時（最伸長時）までの時間を測定する。



図－05

バケットシリンダ速度

・エンジン　定格運転
・作動油温　50℃ ～ 60℃
・測定姿勢　アームシリンダを最縮小にしてアームを水平にする。ドーザを設地させる。
・バケットシリンダの最伸長時（最縮小時）から最縮小時（最伸長時）までの時間を測定する。



図－06